



江戸 吉原

お嬢

ん

懸想屋里長 ～草摺引～

私はここで生まれた

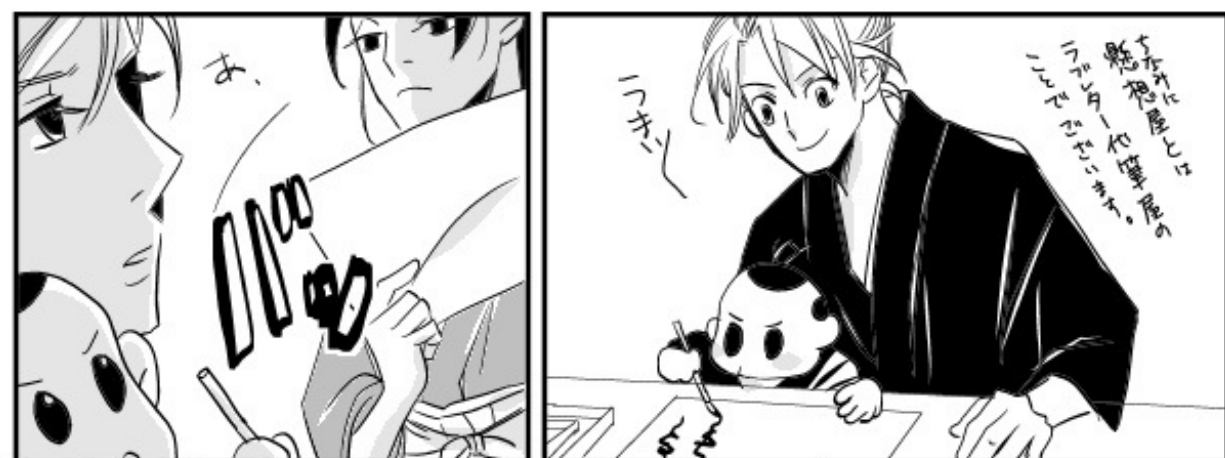
若様みたいー

かっころい♡

コレサ
ミツ!

剣術の
稽古帰り
だからね





私の家は

吉原の中でも
格上の見世だ

客には大名や
幕府の家老も数名

だけど

松の位と言われた
「大夫」も今は昔

昼間の我が家は
ぬるくって
やんなる

はー

いろ
うらなひ
いれちの
しんげんはー
は

大まは二〇〇〇年代には
ハブとされたお茶屋の
白粉屋は「お茶屋」
スローウーメンで
たらしいよ。



どてら
だろう



里長さん
お羽織を

忘れなんしたよ



葛木の客には
幕府の重鎮も
いるから



この葛木が
いわば内の
座頭

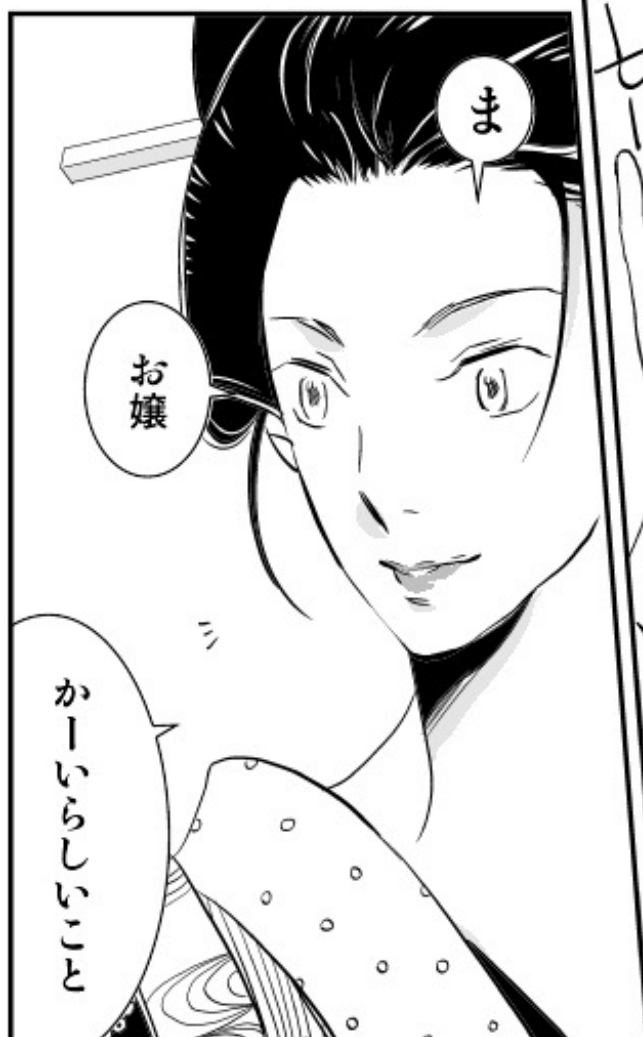


テメエ葛木と
何かあったら

ちよつと待て

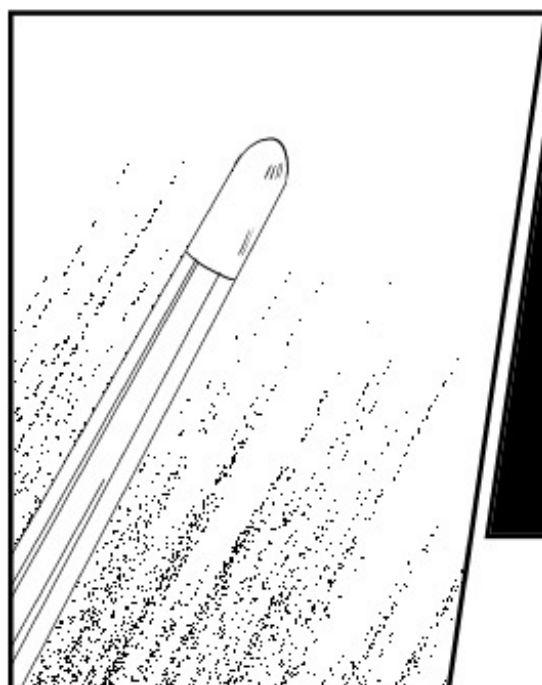


誰も
何も言えない
んだけど

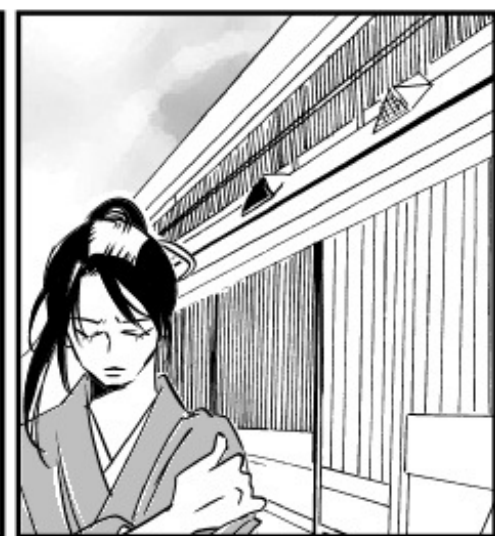


吉原の自治を担ったのは、この若様達だ。

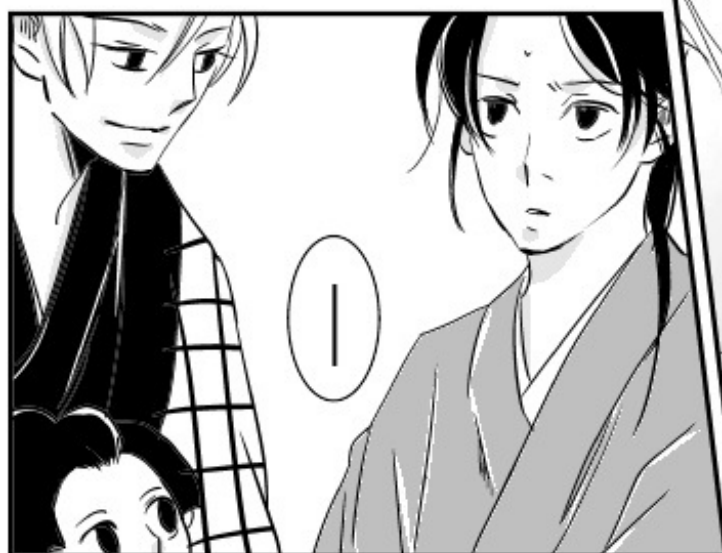




「その時は俺が
水揚をしてやろう」







—



あれ
取れる？



おねがいします
おミツ様

花魁の
大事な鞠
なんだ



自分で
登って
取れば？

できねえから
言っ
てん
ですよ



この

おねが

仕方
ねえな

軟弱もの！



オラ叱られちまうよ…



スシヤン

った

この家が
嫌いなわけじゃ
ない





生まれた所
だから…



私は
このお城の
城主に
なりたいんだ



どうして
私は

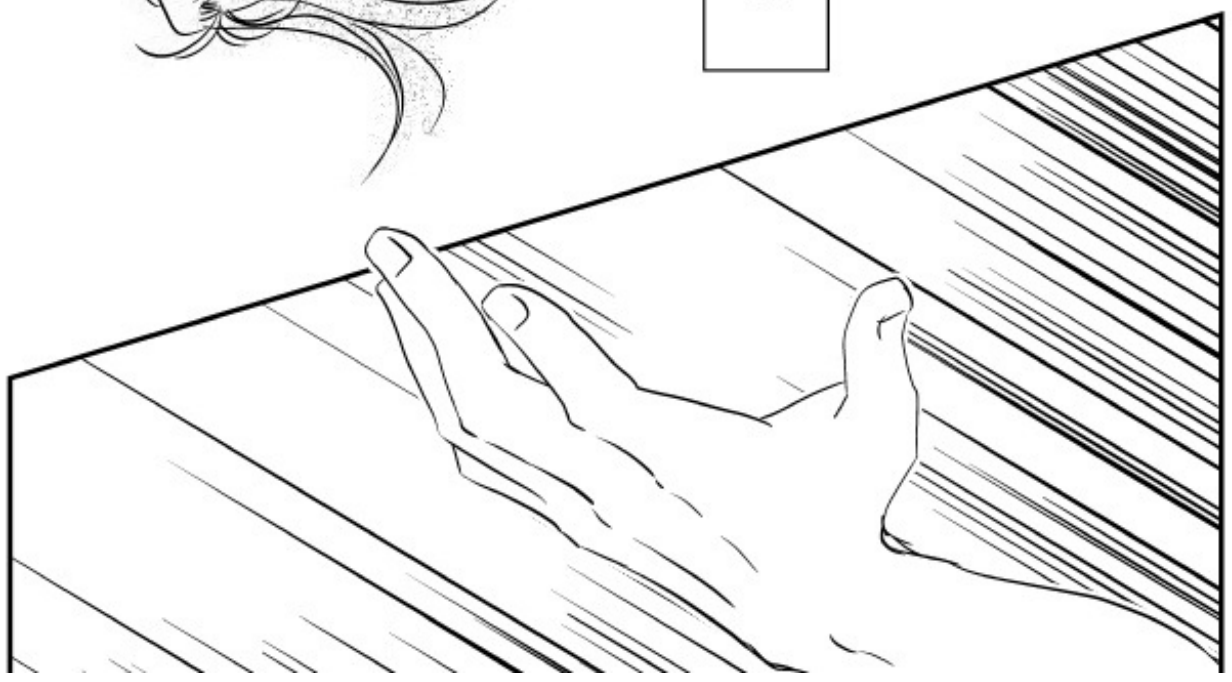


おミツ様
鞠

うん



なのに







だ

だっで〜〜

なで

あー
ごめんごめん

俺が軟弱なのが
悪かった

悪かったよ

おミツ様
ごめんなさい

ごべんだだい

里長さんは
左手がダメに
なってるんだ
だから：


めしな
はかぞえー



それは
内緒








刀が物言わぬ
吉原だから

強いばかりが
男では…

本当は
知ってた

情に
可



わからなかった
だけでね…

毎月午の日
九郎町種屋の御所

懸想屋里長～江戸吉原の恋文代筆屋～6

<http://p.booklog.jp/book/34741>

著者：亀谷キヤ子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kiyako/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/34741>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/34741>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.